

環境省

平成22年度環境技術実証事業

ヒートアイランド対策技術分野

建築物外皮による空調負荷低減等技術
実証試験結果報告書
《詳細版》

平成23年3月

実証機関 : 財団法人建材試験センター
技術 : 日射遮蔽レースカーテン
実証申請者 : 株式会社 黒沢レース
製品名・型番 : Saint-mer (サントメール)・30033C



本実証試験結果報告書の著作権は、環境省に属します。

目次

○ 全体概要	1
1. 実証対象技術の概要	1
2. 実証試験の概要	1
2.1 空調負荷低減等性能実証項目	1
3. 実証試験結果	2
3.1 空調負荷低減等性能	2
4. 参考情報	7
○ 本編	8
1. 実証試験の概要と目的	8
2. 実証試験参加組織と実証試験参加者の責任分掌	9
3. 実証対象技術の概要	11
4. 実証試験の内容	12
4.1 実証試験期間	12
4.2 空調負荷低減等性能	12
5. 実証試験結果と検討	18
5.1 空調負荷低減等性能	18
○ 付録	24
1. データの品質管理	24
1.1 測定操作の記録方法	24
1.2 精度管理に関する情報	24
2. データの管理、分析、表示	24
2.1 データ管理とその方法	24
2.2 データ分析と評価	24
3. 監査	24
○ 資料編	25

○ 全体概要

実証対象技術／ 実証申請者	Saint-mer (サントメール)・30033C／ 株式会社 黒沢レース
実証機関	財団法人建材試験センター
実証試験期間	平成22年8月26日～平成23年2月4日

1. 実証対象技術の概要

金属膜を有した繊維でカーテン生地を編成し、金属の光、熱線を反射、吸収する機能により日射を遮蔽する。

2. 実証試験の概要

2.1 空調負荷低減等性能実証項目

日射遮蔽レースカーテンの熱・光学性能を測定し、その結果から、下記条件における対象建築物の全ての窓に日射遮蔽レースカーテンを室内側に取り付けた場合の効果(冷房負荷低減効果等)を数値計算により算出した。数値計算の基準は、一般のレースカーテン(以下、「一般品」という)とした。一般品の熱・光学性能値は、詳細版本編 4.2.2(3)に示す(詳細版本編 17 ページ参照)。

2.1.1. 数値計算における設定条件

(1) 対象建築物

住宅(戸建 RC 造)モデルの1階 LD 部(リビングダイニングスペース)部

[対象床面積: 20.49 m²、窓面積: 6.62m²、階高: 2.7m、構造: RC 造]

注) 周囲の建築物等の影響による日射の遮蔽は考慮しない。

対象建築物の詳細は、詳細版本編 4.2.2(1)①対象建築物(詳細版本編 13 ページ)参照。

(2) 使用気象データ

1990 年代標準年気象データ(東京都及び大阪府)

(3) 空調機器設定

建築物	冷房設定温度(°C)	稼働時間	冷房 COP
住宅	26.6	6～9 時・12～14 時・16～22 時	4.67

(4) 電力量料金単価の設定

地域	建築物	標準契約種別	電力量料金単価(円/kWh)
東京	住宅	従量電灯 B	22.86
大阪	住宅	従量電灯 A	24.21

3. 実証試験結果

3.1 空調負荷低減等性能

(1) 熱・光学性能試験結果 (平均値)

① レースカーテンの室外側の面を対象とした試験の結果【実証項目】

	結果
日射透過率 (%)	20.5
日射反射率 (%)	61.1
修正放射率(長波放射率) (-)	0.93

② レースカーテンの室内側の面を対象とした試験の結果【参考項目】

	結果
日射透過率 (%)	20.5
日射反射率 (%)	66.3
修正放射率(長波放射率) (-)	0.94

*1：近紫外及び可視光域の波長範囲は、300 nm～780nm である。

*2：近赤外域の波長範囲は、780 nm～2500nm である。

*3：全波長域の波長範囲は、300 nm～2500nm である。

(2) 分光透過率及び分光反射率 (波長範囲 : 300nm~2500nm) の特性

① レースカーテンの室外側の面を対象

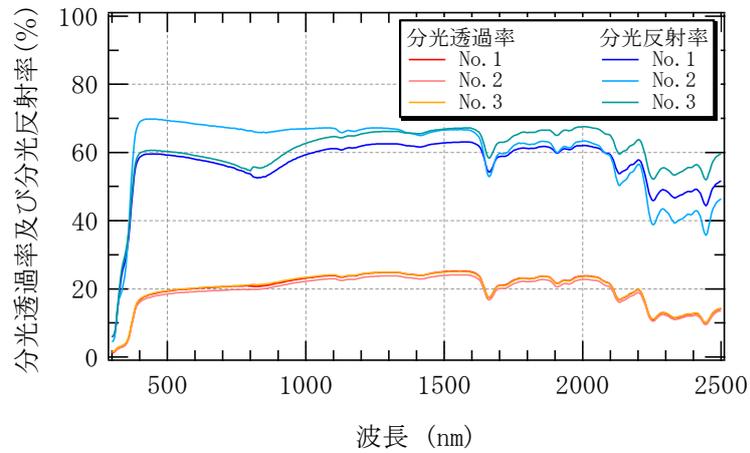


図-2 分光透過率及び分光反射率測定結果

② レースカーテンの室内側の面を対象

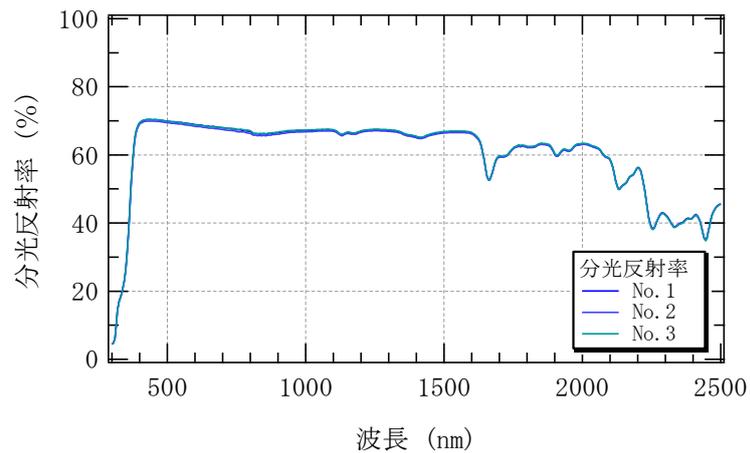


図-3 分光反射率測定結果

3.1.2. 数値計算により算出する実証項目

(1) 実証項目の計算結果

① 住宅モデルでの計算結果

【算出対象区域：LD 部（住宅）】

比較対象：レースカーテン（一般品）

		東京都	大阪府
		住宅(戸建 RC 造)	
冷房負荷 低減効果*1 (夏季 1 ヶ月)	熱量	66 kWh/月 (620kWh/月→ 554kWh/月) ----- 10.6 % 低減	70 kWh/月 (714kWh/月→ 644kWh/月) ----- 9.8 % 低減
	電気料金	326 円低減	366 円低減
冷房負荷 低減効果*1 (夏季 6～9 月)	熱量	269 kWh/4 ヶ月 (1,946kWh/4 ヶ月 → 1,677kWh/4 ヶ月) ----- 13.8 % 低減	280 kWh/4 ヶ月 (2,162kWh/4 ヶ月 → 1,882kWh/4 ヶ月) ----- 13.0 % 低減
	電気料金	1,316 円低減	1,456 円低減
室温上昇 抑制効果*2 (夏季 15 時)	自然室温*3	1.3 °C (35.9°C→ 34.6°C)	1.4 °C (36.9°C→ 35.5°C)
	体感温度*4	1.2 °C (35.3°C→ 34.1°C)	1.2 °C (36.3°C→ 35.1°C)

*1：夏季 1 ヶ月（8 月）及び夏季（6～9 月）において室内温度が冷房設定温度を上回ったときに冷房が稼働した場合の冷房負荷低減効果

*2：8 月 1 日における、対象部での室温の抑制効果

*3：冷房を行わないときの室温

*4：平均放射温度（MRT）を考慮した温度（室温と MRT の平均）

注）数値計算は、モデル的な住宅を想定し、各種前提条件のもと行ったものであり、実際の導入環境とは異なる。また、数値計算の基準は、一般のレースカーテン（以下、「一般品」という）とした。一般品の熱・光学性能値は、詳細版本編 4.2.2(3)に示す（詳細版本編 17 ページ参照）。

(2) 参考項目の計算結果

① 住宅モデルでの算出 比較対象：レースカーテン（一般品）

【算出対象区域：LD 部（住宅）】

		東京都	大阪府
		住宅(戸建 RC 造)	
冷房負荷 低減効果*1 (年間空調)	熱量	450 kWh/年 (2,255kWh/年→ 1,805kWh/年) 20.0 % 低減	540 kWh/年 (2,650kWh/年→ 2,110kWh/年) 20.4 % 低減
	電気料金	2,201 円低減	2,796 円低減

【算出対象区域：建物全体（住宅）】

		東京都	大阪府
		住宅(戸建 RC 造)	
冷房負荷 低減効果*1 (年間空調)	熱量	647 kWh/年 (5,058kWh/年→ 4,411kWh/年) 12.8 % 低減	775 kWh/年 (5,930kWh/年→ 5,155kWh/年) 13.1 % 低減
	電気料金	3,171 円低減	4,015 円低減

*1：年間を通じ室内温度が冷房設定温度を上回ったときに冷房が稼働した場合の冷房負荷低減効果
 注) 数値計算は、モデル的な住宅及びオフィスを想定し、各種前提条件のもと行っており、実際の導入環境とは異なる。また、数値計算の基準は、一般のレースカーテン（以下、「一般品」という）とした。一般品の熱・光学性能値は、詳細版本編 4.2.2(3)に示す（詳細版本編 17 ページ参照）。

(3) (1)実証項目の計算結果及び(2)参考項目の計算結果に共通する注意点

- ① 数値計算は、モデル的な住宅・オフィスを想定し、各種前提条件のもと行ったものであり、実際の導入環境とは異なる。
- ② 熱負荷の低減効果を熱量単位 (kWh) だけでなく、電気料金の低減効果 (円) としても示すため、定格出力運転時における消費電力 1kW 当たりの冷房能力 (kW) を表した COP 及び電力量料金単価を設定している。
- ③ 数値計算において設定した冷房の運転期間は、下記の通りとした。
 - 夏季 15 時 : 8 月 1 日の 15 時
 - 夏季 1 ヶ月 : 8 月 1~31 日
 - 夏季 6~9 月 : 6 月 1 日~9 月 30 日
 - 年間空調 : 冷房期間 1 年*1

*1: 設定温度よりも室温が高い場合に冷房運転を行う。
- ④ 日射が遮蔽され、室内が暗くなることに伴い生じる、照明の量及び時間に起因する熱負荷の増加は考慮していない。
- ⑤ 冷房・暖房負荷低減効果の熱量の欄には、実証対象技術の使用前後の熱負荷の差および使用前後の熱負荷の総和をそれぞれ示している (使用前→使用后)。
- ⑥ 電気料金について、本計算では日射遮蔽レースカーテンの有無による室内熱負荷の差を検討の対象としていることから、種々の仮定が必要となる総額を見積もることをせず、熱負荷の変化に伴う空調電気料金の差額のみを示している (電気料金の算出に関する考え方は詳細版本編 23 ページ【電気料金算出に関する考え方】示す)。

4. 参考情報

(1)実証対象技術の概要（参考情報）及び(2)その他メーカーからの情報は、全て実証申請者が自らの責任において申請したものであり、環境省及び実証機関は、内容に関して一切の責任を負いません。

(1) 実証対象技術の概要（参考情報）

項目		実証申請者 記入欄	
実証申請者		株式会社 黒沢レース	
技術開発企業名		同上	
実証対象製品・名称		Saint-mer (サントメール)	
実証対象製品・型番		30033C	
連絡先	TEL	0277-78-3111	
	FAX	0277-78-6697	
	Web アドレス	http://www.kurosawalace.co.jp	
	E-mail	taro-kurosawa@kurosawalace.co.jp	
ヒートアイランド対策技術の原理		金属膜を有した繊維でカーテン生地を編成し、金属の光、熱線を反射、吸収する機能により日射を遮蔽する。	
技術の特徴		<p>通常、金銀糸と呼ばれる金属膜を有した繊維は、フィルムに金属を蒸着し、染色、スリットして糸にするが、申請技術に用いる糸は金属を蒸着した上に艶消し樹脂をコーティングし、スリットして糸にする。その理由は</p> <p>①金属が直接、空気、水に接して反応することの防止</p> <p>②金属のギラついた光の反射の防止</p> <p>にある。</p> <p>この糸を経編機(ラッセル)によって編地全面に編成し、レースカーテンとして使用することにより、窓からの日射の遮蔽を実現し、ヒートアイランド対策が図られる。</p>	
設置条件	対応する建築物・部位など	一般住宅用窓	
	施工上の留意点	窓の内側に窓を覆う形で吊り下げる	
	その他設置場所等の制約条件	制約条件なし	
メンテナンスの必要性 耐候性・製品寿命など		特別なメンテナンスは不要 ポリエステル 100%のため耐光、洗濯堅牢度 4 級以上	
コスト概算		設計施工価格(材工共)	600 円 1m ² あたり

(2) その他メーカーからの情報（参考情報）

--

○ 本編

1. 実証試験の概要と目的

環境技術実証事業は、既に適用が可能な段階にありながら、環境保全効果等について客観的な評価が行われていないために普及が進んでいない先進的環境技術について、その環境保全効果等を第三者が客観的に実証する事業を実施することにより、環境技術を実証する手法・体制の確立を図るとともに、環境技術の普及を促進し、環境保全と環境産業の発展を促進することを目的とするものである。

本実証試験は、平成22年5月14日に財団法人建材試験センターと環境省水・大気環境局が策定した実証試験要領（第3版）*1に基づいて選定された実証対象技術について、同実証試験要領に準拠して実証試験を実施することで、以下に示す環境保全効果等を客観的に実証したものである。

【実証項目】

◆ 空調負荷低減等性能

【熱・光学性能】

- 日射透過率及び日射反射率
- 修正放射率（長波放射率）

【数値計算】

- 冷房負荷低減効果
- 室温上昇抑制効果

*1：財団法人建材試験センター,環境省水・大気環境局. 環境技術実証事業ヒートアイランド対策技術分野建築物外皮による空調負荷低減等技術実証試験要領. 第3版, 平成22年5月14日, 72p, http://www.env.go.jp/press/file_view.php?serial=15616&hou_id=12475.

2. 実証試験参加組織と実証試験参加者の責任分掌

実証試験に参加する組織は、図 2-1 に示すとおりである。また、実証試験参加者とその責任分掌は、表 2-1 に示すとおりである。

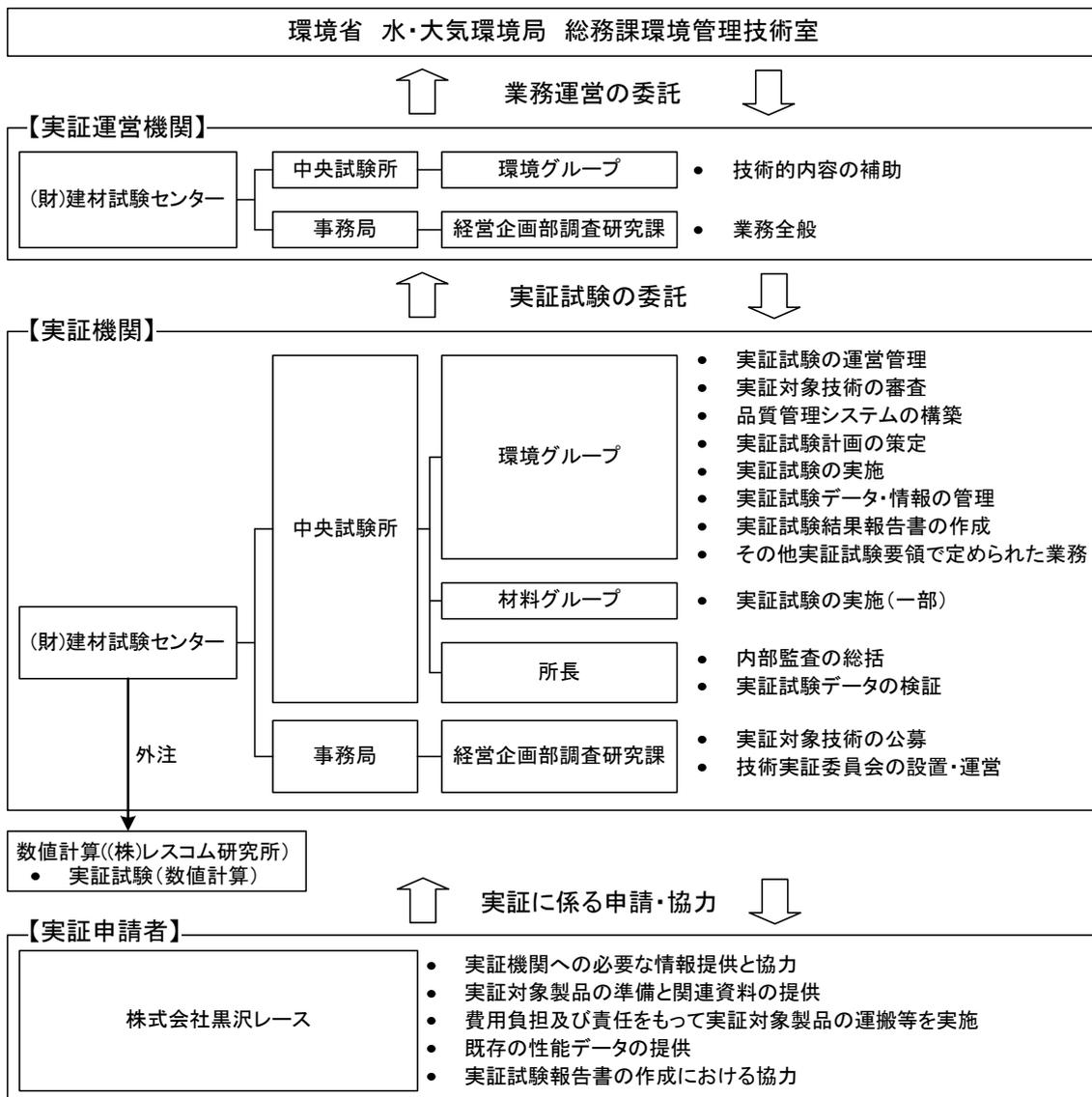


図 2-1 実証試験参加組織

表 2-1 実証試験参加者と責任分掌

区分	実証試験参加機関	責任分掌	参加者
実証 機関	財団法人 建材試験センター	実証試験の運営管理	○中央試験所 環境グループ ・藤本 哲夫 ・萩原 伸治 ・田坂 太一 ・松原 知子 材料グループ ・真野 孝次 ・大島 明 ○事務局 経営企画部 ・川上 修 調査研究課 ・菊地 裕介 ・村上 哲也
		実証対象技術の公募・審査	
		技術実証委員会の設置・運営	
		品質管理システムの構築	
		実証試験計画の策定	
		実証試験の実施・運営	
		実証試験データ・情報の管理	
		実証試験結果報告書の作成	
		その他実証試験要領で定められた業務	
		内部監査の総括	
		実証試験データの検証	
実証 申請者	株式会社 黒沢レース	実証機関への必要な情報提供と協力	黒澤 昇
		実証対象製品の準備と関連資料の提供	
		費用負担及び責任をもって 実証対象製品の運搬等を実施	
		既存の性能データの提供	
		実証試験報告書の作成における協力	

3. 実証対象技術の概要

実証対象技術の概要は、表 3-1 に示すとおりである。

3.実証対象技術の概要に示す情報は、全て実証申請者が自らの責任において申請したものであり、環境省及び実証機関は、内容に関して一切の責任を負いません。

表 3-1 実証対象技術の概要

項目		実証申請者 記入欄	
実証申請者		株式会社 黒沢レース	
技術開発企業名		同上	
実証対象製品・名称		Saint-mer (サントメール)	
実証対象製品・型番		30033C	
連絡先	TEL	0277-78-3111	
	FAX	0277-78-6697	
	Web アドレス	http://www.kurosawalace.co.jp	
	E-mail	taro-kurosawa@kurosawalace.co.jp	
ヒートアイランド対策技術の原理		金属膜を有した繊維でカーテン生地を編成し、金属の光、熱線を反射、吸収する機能により日射を遮蔽する。	
技術の特徴		通常、金銀糸と呼ばれる金属膜を有した繊維は、フィルムに金属を蒸着し、染色、スリットして糸にするが、申請技術に用いる糸は金属を蒸着した上に艶消し樹脂をコーティングし、スリットして糸にする。その理由は ①金属が直接、空気、水に接して反応することの防止 ②金属のキラついた光の反射の防止 にある。 この糸を経編機(ラッセル)によって編地全面に編成し、レースカーテンとして使用することにより、窓からの日射の遮蔽を実現し、ヒートアイランド対策が図られる。	
設置条件	対応する建築物・部位など	一般住宅用窓	
	施工上の留意点	窓の内側に窓を覆う形で吊り下げる	
	その他設置場所等の制約条件	制約条件なし	
メンテナンスの必要性 耐候性・製品寿命など		特別なメンテナンスは不要 ポリエステル 100%のため耐光、洗濯堅牢度 4 級以上	
コスト概算		設計施工価格(材工共)	600 円 1m ² あたり

○その他メーカーからの情報 (参考情報)

--

4. 実証試験の内容

4.1 実証試験期間

(1) 試験体搬入

平成22年 8月25日

(2) 熱・光学性能測定

平成22年 8月26日～平成22年 9月 3日

(3) LESCOM-env による数値計算

平成22年10月25日～平成22年12月21日

4.2 空調負荷低減等性能

4.2.1. 熱・光学性能

(1) 日射透過率及び日射反射率

JIS R 3106 (板ガラス類の透過率・反射率・日射熱取得率の試験方法) に従い、日射透過率及び日射反射率〔波長範囲：300nm～2500nm〕の測定を行う。試験体は製品の中で最も明度が高いものと最も明度が低いものの2種類とし、試験体数はそれぞれ3体 (n=3) とした。試験体の大きさは、50×50mm とした。

(2) 明度

前項の測定した試験体を用い、JIS Z 8722 (色の測定方法―反射及び透過物体色) に従い、10度視野に基づくXYZ表色系の三刺激値を測定する。測定結果をもとに、JIS Z 8721 (色の表示方法―三属性による表示) により明度Vを算出した。

(3) 修正放射率 (長波放射率)

前項の試験体を用い、JIS R 3106 (板ガラス類の透過率・反射率・放射率・日射熱取得率の試験方法) に従い、修正放射率 (長波放射率)〔波長範囲：5.5μm～25μm〕の測定を行う。

【用語の定義】

- 日射透過率
日射 (波長範囲：300nm～2500nm) の透過光の光束と入射光の光束の比。
- 日射反射率
日射 (波長範囲：300nm～2500nm) の反射光の光束と入射光の光束の比。
- 放射率
空間に放射する熱放射の放射束の、同じ温度の黒体が放射する熱放射の放射束に対する比。
- 平均放射温度 (MRT : Mean Radiant Temperature)
人体が周囲の壁面などから受ける放射熱量と同量の放射熱量を射出する黒体の一定の温度のこと (人体に対する熱放射の影響を考慮した体感指標)。

4.2.2. 数値計算

本項目における実証試験結果は、レスポンス・ファクター法に基づく非定常熱負荷計算プログラム「LESCOM-env」により算出する。

「LESCOM-env」とは、旧通産省生活産業局の住機能向上製品対策委員会で開発された多数室非定常熱負荷計算プログラム「LESCOM」を、実証対象技術に応じた内容に追加開発（東京理科大学武田仁教授による）したものである。

計算条件及び計算による出力項目は下記の通りとする。

*1：武田仁ほか．標準気象データと熱負荷計算プログラム LESCOM．第1版，井上書院，2005年

(1) 計算条件

① 対象建築物

住宅（戸建 RC 造）の1階 LD 部（リビングダイニングスペース）部

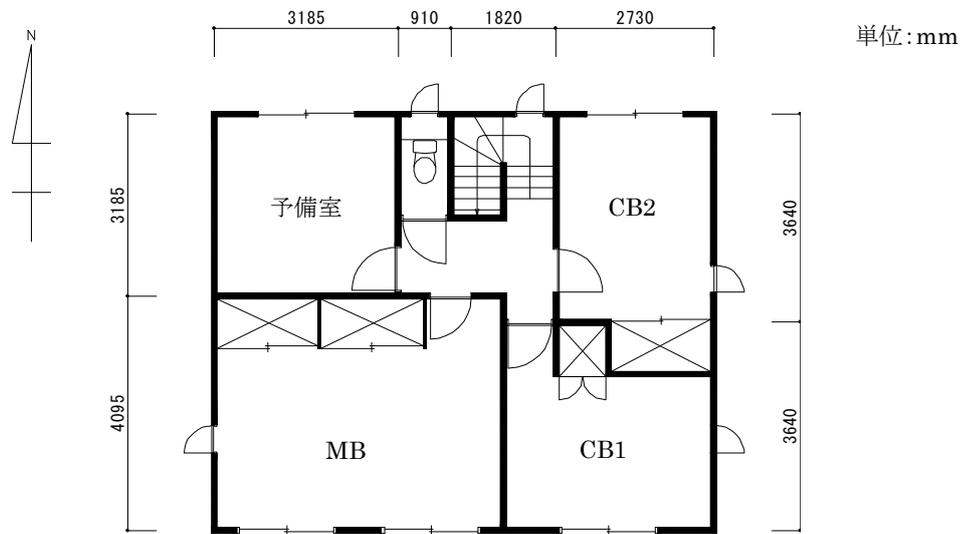
〔対象床面積：20.49 m²、窓面積：6.62m²、階高：2.7m、構造：RC 造〕〔表 4-1、図 4-1〕

- 対象建築物は、「標準問題の提案（住宅用標準問題*2）」に基づき設定した。
- 周囲の建築物等の影響による日射の遮蔽は考慮しない。
- 全ての窓に対して、室内側に日射遮蔽レースカーテンを取り付けるものとした。
- レースカーテンは、期間中常時閉めた状態とした（開閉操作は行わないこととした）。

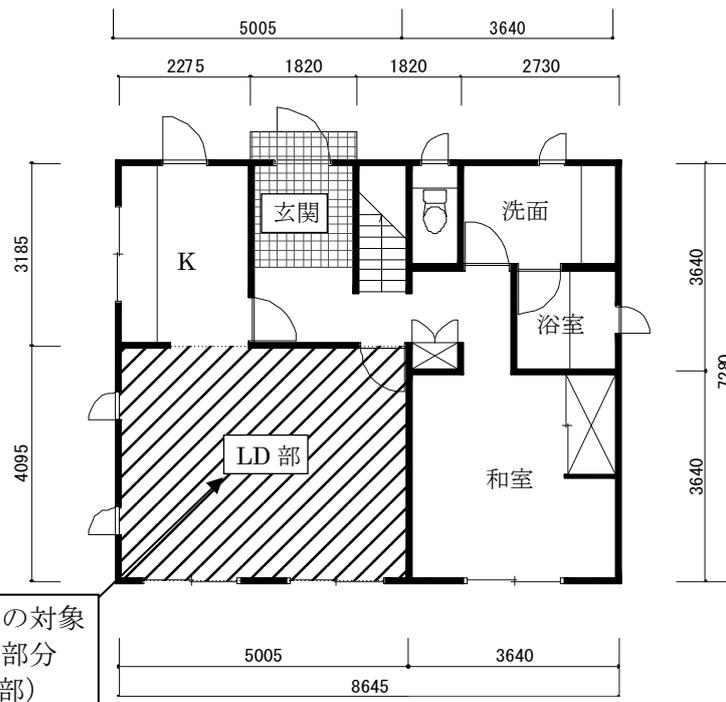
*2：宇田川光弘．標準問題の提案（住宅用標準問題）．社団法人日本建築学会．環境工学委員会．熱分科会第15回熱シンポジウム，1985.

表 4-1 想定する住宅モデル

設定条件	内容
モデル建築物の概要	<ul style="list-style-type: none"> 住宅〔標準問題の提案 (住宅用標準問題)〕 構造：RC造 (鉄筋コンクリート造) 延べ床面積：125.86m²
実証項目の対象となる部分	<ul style="list-style-type: none"> 1階LD部 (リビングダイニングスペース部) 対象床面積：20.49m² 階高：2.7m 窓面積：6.62m²
備考	<ul style="list-style-type: none"> 住宅モデルの詳細は、詳細版資料編 25~26 ページに示す。



2階平面図



1階平面図

実証項目の対象
 となる部分
 (LD部)

図 4-1 計算用住宅モデル (平面図)

② 気象条件設定及び冷房設定

表 4-2 気象条件の設定

設定条件	内容
地域	・東京都、大阪府
気象データ	・1990年代標準年気象データ*1

*1: 武田仁ほか, “第1章 気象データ I 熱負荷基準標準気象データ”. 標準気象データと熱負荷計算プログラムLESCOM. 第1版, 井上書院, 2005年, p7-25.

表 4-3 冷房設定

建築物	冷房設定温度 (°C) *1	稼働時間*2
住宅	26.6	6~9時・12~14時・16~22時

*1: 財団法人省エネルギーセンター. 平成17年度「省エネルギー対策アンケート調査」, 2006, <http://www.eccj.or.jp/swenqute/index.html>. を参考に設定した。

*2: 宇田川光弘. 標準問題の提案 (住宅用標準問題). 社団法人日本建築学会. 環境工学委員会. 熱分科会第15回熱シンポジウム, 1985. を参考に設定した。

③ COP (Coefficient of Performance : エネルギー消費効率) の設定

表 4-4 COP の設定

建築物	冷房 COP	備考
住宅	4.67*1	冷房能力 2.8kW

*1: 財団法人省エネルギーセンター. 省エネ性能カタログ 2006年夏版. 2006. を参考に設定した。

*2: 財団法人省エネルギーセンター. 省エネ性能カタログ・業務用エアコン版・2006年3月. 2006. を参考に設定した。

④ 電力量料金単価

表 4-5 電力量料金単価の設定値

地域	建築物	標準契約種別	電力量料金単価 (円/kWh)
東京	住宅	従量電灯 B	22.86
大阪		従量電灯 A	24.21

*1: 電力量料金単価は、消費税相当額を含んだものである。

注) 燃料価格変動に依存する燃料費調整単価は 0 円/kWh と仮定。

⑤ 実証項目・参考項目の設定期間

表 4-6 数値計算による実証項目・参考項目の設定期間について

項目		名称	設定期間
実証項目	冷房負荷低減効果	夏季 1 ヶ月	8 月 1 日～8 月 31 日
		夏季 6～9 月	6 月 1 日～9 月 30 日
	室温上昇抑制効果	夏季 15 時	8 月 1 日の 15 時
参考項目	冷房負荷低減効果	年間空調	1 年間

(2) 出力項目

本実証試験では、住宅（戸建 RC 造）を対象として計算を行った。

数値計算により算出する各実証項目・参考項目は、日射遮蔽レースカーテン取付けの有無による差分量として求めた。

各項目において、熱負荷の低減効果の熱量単位 (kWh) から電力量料金単位 (円) への換算は、以下の式により行った。

$$\Delta E = \frac{\Delta Q}{COP} \times A \dots\dots\dots (1)$$

ここに、 ΔE : 熱負荷の低減効果 [電力量料金] (ΔE (円))

ΔQ : 熱負荷の低減効果 [熱量] (kWh)

COP : 冷房 COP (—)

A : 電力料金の従量単価 (円/kWh)

表 4-7 LESCOM-env による出力リスト

対応する項目		名称*1	出力単位	対応する部分
実証項目	冷房負荷低減効果	夏季 1 ヶ月	kWh/月	LD 部
			円/月	
	夏季 6～9 月	kWh/4 ヶ月		
		円/4 ヶ月		
室温上昇抑制効果 (自然室温・体感温度)	夏季 1 日	℃	LD 部	
項目	冷房負荷低減効果	年間空調	kWh/年	LD 部
			円/年	建築物全体

*1 : 表 4-6 に示す設定期間に対応する名称

<p>【用語の定義】</p> <ul style="list-style-type: none"> 冷房負荷低減効果 実証対象技術による冷房負荷の低減効果 室温上昇抑制効果 実証対象技術による室温の上昇抑制効果
--

(3) 数値計算の基準値

実証対象技術のヒートアイランド対策としての効果を検討するため、比較対象とする基準を設定する。基準は以下に示す一般品のレースカーテンとする。

表 4-8 スクリーン（一般品）の熱・光学性能値*1

	日射透過率 (-)	日射反射率 (-)
スクリーン（一般品）	0.55	0.40

*1： 藤井正一ほか. “8章開口部の基準と設計”. 住宅の省エネルギー基準の解説. 次世代省エネルギー基準解説書編集委員会. 第2版, 財団法人建築環境・省エネルギー機構, 2007, p.287.

5. 実証試験結果と検討

5.1 空調負荷低減等性能

(1) 熱・光学性能試験結果【実証項目】

① レースカーテンの室外側の面を対象とした試験の結果【実証項目】

	結果			
	No.1	No.2	No.3	平均
日射透過率 (%)	20.7	19.8	20.9	20.5
日射反射率 (%)	57.5	66.0	59.8	61.1
修正放射率(長波放射率) (—)	0.93	0.93	0.93	0.93

② レースカーテンの室内側の面を対象とした試験の結果【参考項目】

	結果			
	No.1	No.2	No.3	平均
日射透過率 (%)	20.7	19.8	20.9	20.5
日射反射率 (%)	66.4	66.0	66.5	66.3
修正放射率(長波放射率) (—)	0.94	0.94	0.94	0.94

(2) 分光透過率及び分光反射率 (波長範囲 : 300nm~2500nm) の特性

① レースカーテンの室外側の面を対象

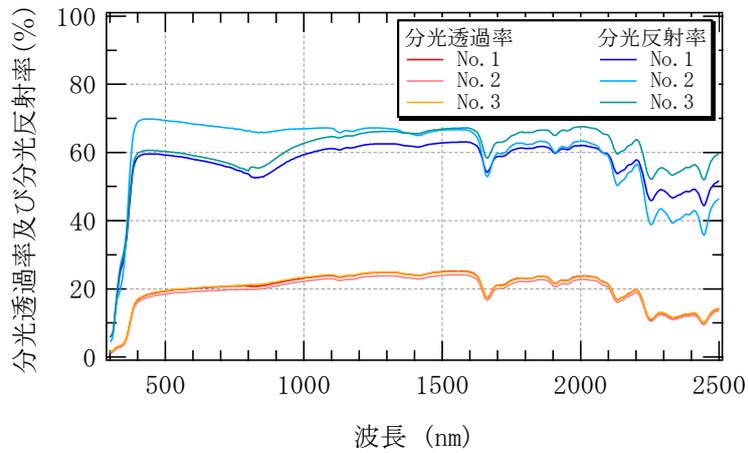


図 5-1 分光透過率及び分光反射率測定結果

② レースカーテンの室内側の面を対象

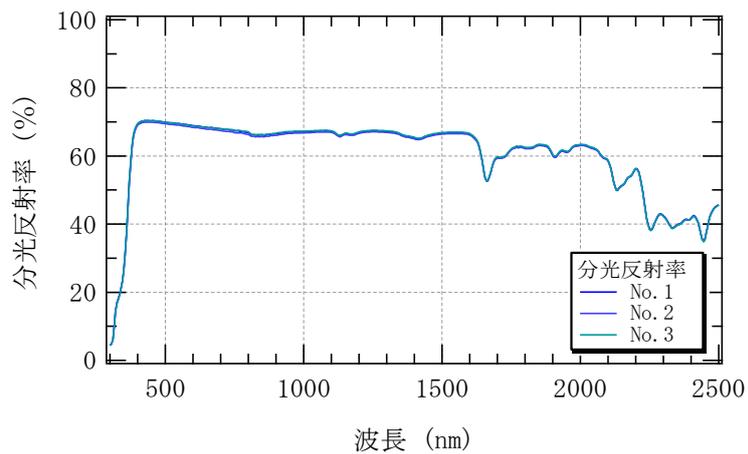


図 5-2 分光反射率測定結果

5.1.2. 空調負荷低減等性能 (数値計算)

(1) 実証項目の計算結果

① 住宅モデルでの計算結果

【算出対象区域：LD 部 (住宅)】

比較対象：レースカーテン (一般品)

		東京都	大阪府
		住宅 (戸建 RC 造)	
冷房負荷 低減効果*1 (夏季 1 ヶ月)	熱量	66 kWh/月 (620kWh/月 → 554kWh/月) ----- 10.6 % 低減	70 kWh/月 (714kWh/月 → 644kWh/月) ----- 9.8 % 低減
	電気料金	326 円低減	366 円低減
冷房負荷 低減効果*1 (夏季 6～9 月)	熱量	269 kWh/4 ヶ月 (1,946kWh/4 ヶ月 → 1,677kWh/4 ヶ月) ----- 13.8 % 低減	280 kWh/4 ヶ月 (2,162kWh/4 ヶ月 → 1,882kWh/4 ヶ月) ----- 13.0 % 低減
	電気料金	1,316 円低減	1,456 円低減
室温上昇 抑制効果*2 (夏季 15 時)	自然室温*3	1.3 °C (35.9°C → 34.6°C)	1.4 °C (36.9°C → 35.5°C)
	体感温度*4	1.2 °C (35.3°C → 34.1°C)	1.2 °C (36.3°C → 35.1°C)

*1：夏季 1 ヶ月 (8 月) 及び夏季 (6～9 月) において室内温度が冷房設定温度を上回ったときに冷房が稼働した場合の冷房負荷低減効果

*2：8 月 1 日における、対象部での室温の抑制効果

*3：冷房を行わないときの室温

*4：平均放射温度 (MRT) を考慮した温度 (室温と MRT の平均)

注) 数値計算は、モデル的な住宅を想定し、各種前提条件のもと行ったものであり、実際の導入環境とは異なる。また、数値計算の基準は、一般のレースカーテン (以下、「一般品」という) とした。一般品の熱・光学性能値は、詳細版本編 4.2.2(3)に示す (詳細版本編 17 ページ参照)。

(2) 参考項目の計算結果

① 住宅モデルでの算出 比較対象：レースカーテン（一般品）

【算出対象区域：LD 部（住宅）】

		東京都	大阪府
		住宅(戸建 RC 造)	
冷房負荷 低減効果*1 (年間空調)	熱量	450 kWh/年 (2,255kWh/年→ 1,805kWh/年)	540 kWh/年 (2,650kWh/年→ 2,110kWh/年)
		20.0 % 低減	20.4 % 低減
	電気料金	2,201 円低減	2,796 円低減

【算出対象区域：建物全体（住宅）】

		東京都	大阪府
		住宅(戸建 RC 造)	
冷房負荷 低減効果*1 (年間空調)	熱量	647 kWh/年 (5,058kWh/年→ 4,411kWh/年)	775 kWh/年 (5,930kWh/年→ 5,155kWh/年)
		12.8 % 低減	13.1 % 低減
	電気料金	3,171 円低減	4,015 円低減

*1：年間を通じ室内温度が冷房設定温度を上回ったときに冷房が稼働した場合の冷房負荷低減効果
 注) 数値計算は、モデル的な住宅及びオフィスを想定し、各種前提条件のもと行っており、実際の導入環境とは異なる。また、数値計算の基準は、一般のレースカーテン（以下、「一般品」という）とした。一般品の熱・光学性能値は、詳細版本編 4.2.2(3)に示す（詳細版本編 17 ページ参照）。

(3) (1)実証項目の計算結果及び(2)参考項目の計算結果に関する注意点

- ① 数値計算は、モデル的な住宅・オフィスを想定し、各種前提条件のもと行ったものであり、実際の導入環境とは異なる。
- ② 熱負荷の低減効果を熱量単位 (kWh) だけでなく、電気料金の低減効果 (円) としても示すため、定格出力運転時における消費電力 1kW 当たりの冷房能力 (kW) を表した COP 及び電力量料金単価を設定している。
- ③ 数値計算において設定した冷房の運転期間は、下記の通りとした。
 - 夏季 15 時 : 8 月 1 日の 15 時
 - 夏季 1 ヶ月 : 8 月 1～31 日
 - 夏季 6～9 月 : 6 月 1 日～9 月 30 日
 - 年間空調 : 冷房期間 1 年*1

*1: 設定温度よりも室温が高い場合に冷房運転を行う。
- ④ 日射が遮蔽され、室内が暗くなることに伴い生じる、照明の量及び時間に起因する熱負荷の増加は考慮していない。
- ⑤ 冷房・暖房負荷低減効果の熱量の欄には、実証対象技術の使用前後の熱負荷の差および使用前後の熱負荷の総和をそれぞれ示している (使用前→使用后)。
- ⑥ 電気料金について、本計算では日射遮蔽レースカーテンの有無による室内熱負荷の差を検討の対象としていることから、種々の仮定が必要となる総額を見積もることをせず、熱負荷の変化に伴う空調電気料金の差額のみを示している (電気料金の算出に関する考え方は詳細版本編 23 ページ【電気料金算出に関する考え方】示す)。

【電気料金算出に関する考え方】

電力料金は、主に基本料金等と電力量料金で構成されている。日射遮蔽レースカーテンによる空調負荷低減効果を算出する上で、契約内容等の条件を固定すると、基本料金等は日射遮蔽レースカーテンの取付け前後で一定となり、日射遮蔽による影響を受けるのは空調負荷量に依存する電力量料金のみになる。

電力量料金は電力量料金単価と燃料費調整単価（石油等の燃料価格変動に依存）で構成されているが、燃料費調整単価は電力量料金単価と比較して十分小さいため、電力量料金は電力量料金単価のみで算出することとした。

住宅の電力量料金単価については、1ヶ月の消費電力によって三段階の料金制度となるが、東京電力・関西電力ともに、標準的な家庭における1ヶ月の消費電力は300kWh以下であるので、空調負荷低減効果の算定には120～300kWhの電力量料金単価を適用した。

《引用文献》

- 東京電力株式会社.電気供給約款.2009, 132p.
- 東京電力株式会社.電気需給約款 [特定規模需要 (高圧)] . 2010, 117p.
- 関西電力株式会社.電気供給約款.2009, 149p.

○ 付録

1. データの品質管理

本実証試験を実施にあたり、データの品質管理は、財団法人建材試験センターが定める品質マニュアルに従って管理した。

1.1 測定操作の記録方法

記録用紙は、財団法人建材試験センター規程による試験データシート、実測値を記録するコンピュータプリントアウト及び実証試験要領に規定した成績書とした。

1.2 精度管理に関する情報

JIS Q 17025:2005 (ISO/IEC17025:2005)「試験所及び校正機関の能力に関する一般要求事項」に準拠した測定トレーサビリティによりデータの精度管理を行った。

2. データの管理、分析、表示

2.1 データ管理とその方法

本実証試験から得られる以下のデータは、財団法人建材試験センターが定める品質マニュアルにしたがって管理するものとした。データの種類は次のとおりである。

- 空調負荷低減等性能のデータ

2.2 データ分析と評価

本実証試験で得られたデータについては、必要に応じ統計分析の処理を実施するとともに、使用した数式を実証試験結果報告書に記載する。

実証項目の測定結果の分析・表示方法は以下のとおりである。

(1) 空調負荷低減等性能のデータ

- 日射透過率及び日射反射率、明度、修正放射率（長波放射率）、冷房負荷低減効果、室温上昇抑制効果

3. 監査

本実証試験で得られたデータの品質監査は、財団法人建材試験センターが定める品質マニュアルに従って行うものとする。実証試験が適切に実施されていることを確認するために実証試験の期間中に内部監査を実施した。

この内部監査は、本実証試験から独立している財団法人建材試験センター中央試験所長を内部監査員として任命し実施した。

○ 資料編

付表 1 計算用住宅モデル (戸建 RC 造) の詳細情報 (屋根・壁・床)

部位	構成	
屋根	屋外側	軽量コンクリート (60mm)
	⇕	GW (50mm) 合板 (12mm)
		コンクリート (130mm)
		空気層 [屋根裏空間]
室内側	せっこうボード (12mm)	
外壁	屋外側	アルミサイディング (2mm)
	⇕	GW (50mm)
	室内側	コンクリート (150mm)
間仕切り壁	コンクリート (150mm)	
2階床	2階側	床板 [合板] (10mm)
	⇕	合板 (20mm)
		コンクリート (130mm)
		空気層
1階側	せっこうボード (12mm)	
1階床	室内側	ビニールタイル (5mm)
	⇕	モルタル (35mm)
		コンクリート (130mm)
地下側	GW (50mm)	
1階和室床	室内側	畳 (60mm)
	⇕	合板 (12mm)
		GW (50mm)
		床下空気層
地下側	コンクリート (130mm)	

※GW：グラスウール (24K 相当品)

付表 2 計算用住宅モデル (戸建 RC 造) の詳細情報 (窓・建具)

部位	構成		
窓	① (引違)	開口寸法：W1700mm×H2000mm ガラス寸法：W780mm×H1850mm (2枚)	
	② (引違)	開口寸法：W1700mm×H1200mm ガラス寸法：W780mm×H1050mm (2枚)	
	③ (片開)	開口寸法：W500mm×H1200mm ガラス寸法：W400mm×H1050mm (1枚)	
	④ (引違)	開口寸法：W1700mm×H450mm ガラス寸法：W730mm×H300mm (2枚)	
ドア	玄関	W1000mm×H2000mm	合板 (12mm)
			GW (50mm)
			合板 (12mm)
	勝手口	W800mm×H 2000mm	合板 (12mm)
			GW (50mm)
			合板 (12mm)
	室内	W800mm×H 2000mm	合板 (4mm)
			密閉空気層
			合板 (4mm)